

同窓会に新風を 開校六十周年の時

新会長に就任して

同窓会会長

眞田 治孝



駒澤大学高等学校は本年開校六十周年を迎えました。

この大きな節目の年の去る五月に開催されました役員総会におきまして同窓会の会長を仰せつかりました五期生の眞田でございます。

私共五期生が入学する前年度に木造校舎が火災のため半壊し大学の教室を借用して授業を受けるという有様で、したがって生徒数も少なく淋しい有様でした。しかし教育陣は錚々たる先生方で生徒数が少ない分、人と人としての触れ合いがあり後の人間形成に役にたつたのではないかと思っております。

その後間もなく渋谷の大学の施設に移転し地の利も得て生徒数も増え手狭になり大学の敷地内に新校舎を。更に現在地に「駒澤大学高等学校」の表札（上野元校長揮毫）を掲げた。校門の有る借り物ではない教育施設一式を整備して今日の栄えある時を迎えました。

学校の発展とともに我々同窓生も幾何級数的に増え今や二万数千人を数えるにいたり

題字・故 上野慧賢先生

発行所
駒澤大学高等学校
同窓会

正会員数 24,448名

東京都世田谷区上用賀1丁目
〒158-8577 TEL.3700-6131(代)

FAX.3708-7291

振替口座 0018-6-61881

http://www.komazawa.net
E-mail:dosokai@komazawa.net

ました。今回の開校六十周年記念に当り同窓会として校旗と記念誌を贈呈させていただきました。

今までの校旗は五十七年前に同窓会が贈呈したものと聞いております。さすがに色が褪せかかり母校の六十年の歴史を感じずにはおれません。

この長い校史の中で現校長の浦先生（十三期生）は同窓生の中で初めて校長職に就かれました。教育施設の充実特に生徒の安全のため校舎の耐震化を進め母校のため頑張っております。

よく何かの折に我々同窓会と梅檀会（保護者の会）、一如会（高卒者の保護者の会）を学校を支える三本の柱と例えられます。現在梅檀会の会長は白鳥正志氏（二十三期生）一如会の会長は鳥澤俊寛氏（三期生）同窓会は眞田（五期生）と三本の柱が全部卒業生で揃いました。

そして校長先生に浦 敏之氏（十三期生）を迎えここに強い絆で結ばれた協力体制が出来たのではないかと思います。

その一翼を同窓会が担う為にも同窓生が互いに連携を強め活性化を計らなければならぬと思います。私も未熟ではありますが任期中二年同窓会の為微力を尽くしたいと思えます。

それには同窓生諸氏のご協力ご指導がなくては成し得ません。

何かとご教示賜りますようお願い申し上げます。お願ひ申し上げます。（八期）

開校60周年記念式典 駒澤大学高等学校



式典

日時：平成20年10月18日（土）
午前11時

会場：駒澤大学高等学校体育館

祝賀会

日時：平成20年10月18日（土）
午後1時

会場：駒澤大学高等学校小体育館

開校六十周年記念式典開催

平成19年度 駒澤大学高等学校同窓会収支計算書 (平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)				
収入の部 (単位:円、△予算超過)				
項 目	予算額	決算額	差 異	備 考
入 会 金 収 入	8,880,000	8,820,000	60,000	15,000×488名
年 会 費 収 入	1,684,000	1,614,000	70,000	2,000×588名、郵便振込分(438,000/198名)
寄 付 金 収 入	30,000	61,375	△31,375	郵便振込分(7名)
雑 収 入	10,000	18,241	△8,241	受取利息等
前年度繰越金	16,836,744	16,836,744	0	
収 入 の 部 合 計	27,440,744	27,350,360	90,384	
支出の部				
事 務 費 支 出	500,000	300,064	199,936	HPI打込料 インク代 振込手数料等
通 信 費 支 出	200,000	74,695	125,305	電話使用料 印刷郵便代 電報料
会 議 費 支 出	1,000,000	698,222	301,778	役員旅費 役員会 常任理事会
慶 弔 費 支 出	500,000	466,275	33,725	記念品代 退職慰労金代 喜喪・生花代等
同窓新報発行費支出	8,500,000	2,715,988	5,784,012	編集費 印刷発行費
クラス会助成費支出	400,000	170,000	230,000	クラス会13件 O8会4件
クラブ助成費支出	1,000,000	987,500	12,500	体育部 柔道部 剣道部
文化活動費支出	1,000,000	0	1,000,000	
60周年支援準備立金支出	2,000,000	2,000,000	0	60周年支援準備立金
予 備 費 支 出	1,000,000	0	1,000,000	
次年度繰越金	11,340,744	19,937,616	△8,596,872	※
支 出 の 部 合 計	27,440,744	27,350,360	90,384	
(※:内訳)				
三井住友銀行 桜新町支店(普通)	14,389,113		城南信用金庫 用賀支店(普通)	838,775
三井住友銀行 桜新町支店(定期)	0		城南信用金庫 用賀支店(定期)	0
三井住友銀行 桜新町支店<会費>(普通)	173,613		世田谷用賀郵便局(定期)	1,420,000
			世田谷用賀郵便局(振替)	3,115,115
※ 合計				19,937,616
平成20年4月12日 同窓会会計監査 吉野信行(書)				



役員総会・田上前会長 挨拶

平成20年度
新役員

会 長
眞田 治孝 (5期)

副会長
濱田 好晃 (8期)

高木 恒一 (16期)

宮田 利徳 (15期)

原 正男 (1期)

久保田昌希 (18期)

荒井 伸夫 (20期)

米山 正行 (26期)

馬場 元司 (31期)

井上 誠二 (33期)

村松 哲文 (36期)

田中 大輔 (46期)

加藤 寛隆 (47期)

大澤美由紀 (48期)

亀田 雄人 (50期)

木村 紀子 (52期)

妻倉 由明 (16期)

戸田 光信 (43期)

大石 智子 (事務)

平成20年度

平成20年5月23日

駒澤大学高等学校同窓会収支予算書

《 収支の部 》

項 目	前年度予算	本年度予算	備 考
入会金(@15,000)	8,880,000	7,260,000	(@15,000×484名)
年会費	1,684,000	1,468,000	(2,000×484名)+郵便振込50万(250名)
寄付金	30,000	30,000	
60周年支援準備金取り崩し収入	0	2,001,669	
雑収入	10,000	10,000	
前年度繰越金	16,836,744	19,937,616	
合計	27,440,744	30,707,285	

《 支出の部 》

項 目	前年度予算	前年度決算	本年度予算	備 考
事 務 費	500,000	300,064	500,000	
通 信 費	200,000	74,695	200,000	
会 議 費	1,000,000	698,222	1,000,000	
慶 弔 費	500,000	466,275	500,000	
同窓新報発行費	8,500,000	2,715,988	8,500,000	
クラス会助成費	400,000	170,000	400,000	
クラブ助成費	1,000,000	987,500	1,000,000	
文化活動費	1,000,000	0	1,000,000	
創立60周年支援準備設立金	2,000,000	2,000,000	0	
同窓60周年記念事業への補助費支出	0	0	4,000,000	
予 備 費	1,000,000	0	1,000,000	
小 計	16,100,000	7,412,744	18,100,000	
次年度繰越金	11,340,744	19,937,616	12,607,285	
総 計	27,440,744	27,350,360	30,707,285	

会計監査
高木 正博 (15期)
吉野 信行 (28期)
名譽会長
田上 太秀 (4期)
相談役
秋山 彰三 (1期)
大谷 康憲 (3期)
特別顧問
浦 敏之(校長・13期)
顧問
鈴木 貞雄(教頭)
澤口 洋一(事務長)
貫井 洋(総務部長)
井上 保宏(教務部長)
宮 健二(校友会主任・16期)

常任幹事
市川道太郎 (1期)
菅原 信昭 (2期)
坂井 茂 (4期)
清水 俊一 (7期)
吉沢 道雄 (10期)
渡辺 幸一 (16期)
石渡 進 (17期)
前田 光俊 (18期)
岡弘 清孝 (18期)
丹野 滋夫 (20期)

辻 克治 (21期)
山根 真一 (23期)
栗山 和美 (24期)
小林 正行 (27期)
宮沢 新一 (29期)
野口 直正 (30期)
北見 英之 (32期)
松本 盛一 (33期)
田中 秀一 (34期)
相宮 潤 (35期)
石原 透 (36期)
川端 健介 (38期)
岡本 勝男 (39期)
羽場 敬仁 (40期)
山口 拓 (41期)
成田 義孝 (42期)
安仲 聡 (43期)
行廣 剛 (44期)
佐藤 衛 (45期)
塩津 順平 (46期)
井上 智晴 (47期)
菅谷 正和 (49期)
上原 圭太 (50期)
石井 瑞希 (51期)
村 真理子 (53期)
武島 実佳 (54期)
齋藤 典明 (55期)
太田 育郁 (56期)

平成十九年度
クラブ助成・華道同好会(壺)

「同窓新報」編集委員会
委員長
荒井 伸夫 (20期)
委員
原 正男 (1期)
眞田 治孝 (5期)
妻倉 由明 (16期)
高木 恒一 (16期)

幹 事 三五七名
(58期)
角谷 祐紀 (A組)
石黒 潤 (B組)
青木 杏里 (B組)
橋本 瑛大 (C組)
田原快男児 (E組)
岡田 和海 (F組)
阿部 翔太 (G組)
若林 由樹 (H組)
佐野 翔平 (I組)
森本 顕 (J組)
水越 朝巴 (K組)
永井 優子 (L組)
戸木 祐司 (L組)
伊藤 健治 (M組)
大概菜里奈 (N組)

二杉 洋香 (57期)
森下 優香 (58期)
日吉 明廣 (19期)
馬場 元司 (31期)
石川美由紀 (48期)
石井 瑞希 (51期)
木村 紀子 (52期)
村 真理子 (53期)

60周年記念事業
グラウンド改修工事(人工芝)

会員だより

わ
の
広
場

太平洋を越えて

四十八期C組

大澤（石川）美由紀

私は二〇〇七年六月からアメリカ合衆国ワシントン州で暮らしています。イチロー選手が所属するマリナーズの本拠地シアトルから南東へ、小型飛行機では四十五分、車だと三時間半のリッチランドと言う所です。

まさか海外で生活するのは、数年前の私は予想もしていませんでした。生活どころか、海外旅行にも行つた経験も無く、国際線に乗るのも今回が初めてで、当たり前のことですが、周りから聞かえてくる言葉が英語ばかりで新鮮でした。

生活の基盤が整うまでは、初めて経験することや、常識の違ひもあり、驚きの連続でした。渡米してから早一年、今ではすっかり慣れ、楽しく過ごしています。

とにかく圧倒されたのは、



スーハー禅誕生

34期D組 伊 藤 淳

(7) 平成20年(2008年)2月16日 (中外日報より)

“究極の予防医学、 禅を核に心身解放



オープンした禅堂に坐る創設者の伊藤淳社長

東京都心に癒やしの
 禅堂

「suhaa TOKYO」は、約一〇〇坪の施設内に受付カウンター、クラブラウンジ、パウダールーム、ロッカールームのほか、約三〇坪の禅堂、バランスセラピーやアロマフレクソロジー、鍼灸マッサージ（九十分・四千二百円）後、二十五歳で帰国。会

くりこそが私の志す日本再生「ビジネス」と事業理念を明らかにしている。都心の宝塚劇場地下という華やかな立地で心身の癒やしと解放を目指す

（ソフトアキュパンクチャー）等の施設エリアを持つ。（株）ダイナブラネット（川岡正則代表取締役が運営する。施設は月曜から土曜の午前十時から午後九時と、日曜・祝日の午前十時から午後六時まで利用できる。入会金は個人会員五千五百円（税込）み）、法人・団体会員十二万円（税込）。提供メニューは、禅指導（九十分・四千二百円）後、二十五歳で帰国。会

手僧侶ら坐禅指導

坐禅指導は、曹洞宗総合研究センター教化研修部門講師の中野東禅氏と曹洞・臨済の若手僧侶が行なう。

設立者の伊藤氏は、駒沢大学高等学校を卒業。十代から二十代前半にかけてアメリカでジャズギターに打ち込み、プロを目指して修業に励んだ（二〇一〇年）。

社勤務をしながら大型プロジェクトに参加し、ビジネスのノウハウを学び、店舗開発、空間デザイン、グラフィックデザイン分野で独立して（株）セネカプライムズを設立。さらに医療系事業設立のコンサルティングを開始し、「スーハープロジェクト」を推進してきている。

都千代田区有楽町一ノ三 東京宝塚ビル地下一階。問い合わせはフリーダイヤル（〇二〇〇）三六三七七。

曹洞・臨濟宗の若手僧侶ら坐禅指導

東京」が八日、オープンした。「スーハー」は呼吸音を表わし「呼吸は己究につながる」との考えから、禅室中核に据え点に立ち返るきつかけつウダールーム、ロッカー

藤澤氏は「多くの人々が健康やかな時間、優しい生活、日本の心といった原施設内に受付カウンター、クラブラウンジ、パ

「suuhaa TOKYO」は、約一〇〇坪の午前十時から午後九時と、日曜・祝日の午前十時から午後六時まで利用できる。入会金は個人会員五万二千五百円(税込)

英会話ながらお喋りしたり、ランチや買い物へ一緒に出かけるようになりました。

また、近くのコミュニティ
カレッジに日本語クラスがあ
ることを知り、日本人の先生

やクラスの学生と接する機会もあります。交友関係が広がるだけでなく、英会話の練習にもなっています。学生は日本文化に大変興味を持っています、中にはかなり日本語を理解でき、すらすら話せる人も

います。普段から積極的に学んでいることが良く分かり、感心しました。インターネットを通じて、日本のアイドルやドラマをこまめにチェックしている学生もいて、話題も豊富で面白いです。

一年の間に、色々な年中行事も体験できました。七月四日の独立記念日には、昼間か

らバーベキューを楽しむ家族や、キャンピングカーでのんびり過ごす人々で、公園は大賑わいでした。夜十時（日照時間が長く日が沈まないいた

め) から花火を交えたセレモニーが開催されました。ハロウィンでは、ジャック・オ・

ランタン（大きなかぼちゃをくりぬいて作る提灯みたいなもの）に挑戦しました。家々

のデコレーションもとても凝
っていました。巨大な魔女の
人形や、地面から這出て来そ
うなゾンビ、そして時には可
愛らしいのもあり、散歩して
周るだけでも楽しかったで
す。サンクスギビングには当

然のように、丸ごとのターキーが店頭に並びます。どこの家庭でも大きなオーブンがあるからでしょうか。もちろんクリスマスには、どこの家も綺麗なイルミネーションがなされ、本物のもみの木を室内

に飾るようで、驚きました。

こちらでは日本のように大晦日・三箇日という感覚は無

く、年末年始は元旦のみ休日です。一年通してみても、意外なことに日本の方が休日祝日が多いことがよくわかりました。日常生活においては、

こちらの方が早い時間に帰宅し、家族で過ごす時間を大切にしているように感じます。

子供の送り迎えも両親の大切な役割であり、たとえ平日の学外活動の場でも、親が子供

に付き添い、様子を見守っている姿がとても印象的です。

日本から離れ、他国の文化や人々、生活に直接触れることは、私の人生において、とても大きな経験になると思います。離れたことで、これま

で見えなかった日本の姿に気づくようになりました。異なる文化や習慣を持つ様々な人種の人々が暮らしているこの国では、相手に悟ってもらうのではなく、自分の考えを言葉にして相手に伝えることが

とても大切なのだと強く感じています。あとどのくらい、この土地で暮らすのか分かり

ませんが、アメリカでの生活を満喫し、より一層成長して帰国できたらと思います。

Seeing is believing は真実です。

音羽出版より本を出版

三期 島田寿三
青空うれし（本名・島田寿三・三期卒業生）氏が長い芸能界の中での思い出話を綴った本を出版しました。ぜひ購読を。



笑味機嫌
「芸人」爆笑パラダイス
青空うれし＝清



恩師の肖像

知らざることを知る喜び

教諭 樋渡 俊光



高校が用賀に新しく建てら

れた、四十二年前に、私はこの学び舎に奉職し、今日退職を迎えました。この四十二年間、毎日が本当にとっても充実した、楽しい年月でした。それは多くのよき学生に出会い、素晴らしい先生方に巡り会え、その時に、私の知らざることを数多く学べたからです。学ことが私の一番の喜びでした。

私が教員として勤めた、最初の校長は、上野慧賢先生でした。先生がいつも会議でおっしゃった言葉は「先生方、自分の専門科目は徹底的に勉強してください。生徒は自然に、先生方を尊敬し、ついて来るものです。」この言葉を、私なりに実践できたことが、教師生活が充実したゆえんでもあります。また、先生は、講堂で生徒に話される時、よく諺を引き合いにだして、話されたものでした。そのなかの一つに「大象は兎徑に遊ばず」という諺でした。この言葉も私にとって、今日の私を形成するうえで重要で、意味ある言葉でした。

次に、私のEnglish speaker-activityと国際人としての、

英語教師の資質を向上させて

くれたのは、かつての英語部

顧問であった Carl Kenneth

Smith 先生、Rod Case 先生

(現：Central Washington

University 体育学部教授)、

Timothy Wright 先生(大妻

女子大学教授)、Anthony

Fenton 先生(現：英会話講

師)の先生方である。

Smith 先生とは一九八二年

に全国私学教育研修会で、こ

れからの英語の授業のやり方

として、二人で model 授業

を行い、その結果一九八三年

～一九九三年まで日本私学教

育研究所英語科研究副委員長

として日本の私学の英語教育

に微力ながら貢献できたこと

は、私の誇りであります。

Rod 先生とは、我が校のアメ

リカ研修セミナーを Bellu-

view Community College で行

ったときに知り合い、その後

彼とともにセミナーは Cent-

ral Washington 大学で行われ

るようになりました。一九九

三年に彼の紹介で、Central

Washington 大学の外国語学

部の客員教授として、半年間

学生に日本のことについて英

語で授業できたことは、私の

英語にたいする自信となりま

した。又 Timothy 先生や

Fenton 先生には私が論文等

を書くときに、大きな力とな

っていただきました。

おもえば、四十二年間は諸

先生方の協力を得て、あっと

ゆうまに過ぎ去りました。こ

れから、週三日間駒澤大学で

教鞭をとりますが、今までど

おり頑張るつもりです。

(英語科・昭和四十一年四月

～平成二十年三月退職)

.....

心のふるさと

教諭 津留 義広



開校六十周年を迎え、衷心よりお慶び申し上げます。

私は昭和四十二年、本校に英科の教員として奉職してから四十一年が経ちました。今年の三月末をもって一身上の都合で退職しました。

三月の卒業式は、言わば三年生の花道であります。式の終わりで校歌斉唱している瞬間に、三年生と私は立場は異なっても、校歌に心情的共感を覚え、その魂と意義を認識しました。

校歌は時空を超え、老若男女を問わず同胞の証となり、人生を支える心の拠り所でもあると思います。

在職中に、時は昭和から平成へ、西暦一千年代から二千年代へと移りました。また新校舎が建設され、男女共学となり、部活動では野球部の甲子園初勝利など数々の活躍があり、思い出は尽きません。

今、外に出て本校の存在を考えると見方も多少変わってきます。例えば、新聞やテレ

ビなどで駒澤という表現を見つけると懐しくなり、同窓生や在校生に対し、「頑張れ！」と応援したくなります。

今日までの私の人生において、その大半を過ごした本校はかつての勤務先というより、心のふるさとであると思えます。

私は熊本の肥後もつこすゆえに、無骨な生き方しかできず、在職中は何かと迷惑をおかけしましたが、良き教職員、生徒に囲まれ、本当に楽しい思い出ができました。深く感謝し御礼申し上げます。

皆様のご健勝とご健闘を祈念し、開校六十周年の慶事を機に、同窓会並びに本校の更なる発展を期待して、惜別のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

(英語科・昭和四十二年四月～平成二十年三月退職)

.....

我以外すべて菩薩

教諭 横山 汪



昭和四十五年奉職、今春自己都合で退職させていただ

いた。アツという間の三十八年。あわせて、私がこの六十年間に会えた人々はみな菩薩様であったと実感している。以下に在職中の事どもを振り返ってみたい。

十八歳の春、駒澤大学歴史学科入学。信州の山奥からのぼつと出が、花の大東京の人波と喧噪にときまぎ、あたふ

たの四年間。そんな色が抜けぬまま、仏恩あつての駒大高校就職とはなったものの初年度は散々であった。しまらぬ授業の時間中に弁当箱の音がガチャリ。休み時間中廊下にたむろするモサ連中のなかからポツとあがったライターの姿を見とがめ、「コラッ」と駆け寄ったが生徒たちのおとぼけに歯が立たずなど、大いになめられてしまった。一事が万事、意気消沈の体であったが、諸先生の励ましで気力を取り戻した。

夢喰う虫も好きずき。こんな頼りない教員を良しとしてくれた、最初の教え子のA君に仲人を指名された。披露宴では新郎より若くみえる仲人を前に、主賓から、「互いの年齢が近いのは、より長い付き合いができることになり喜ばしい」との祝辞をたまわり、A君との親交は今日に続いて

いる。奉職以来、担当した世界史をとおり、歴史を学ぶ目的は「温故知新」。しかし、人間はこりず戦争をくりかえす「歴史に学ばぬ愚か者」。また「歴史は知的好奇心の宝庫」であるとも説いた。二十二年前のチェルノブイリ原発事故をきっかけに、新聞記事を紹介する資料を配布し、歴史の「露頭」である新聞活用をうながした。この一〇年来駒大

高祭で展示した生徒諸君の作品をふくむスクラップブックや各種記事は、朝日・東京・日経・毎日・読売の五紙購読の成果だ。私の知識の大半は新聞から得た。だから現在の二紙購読がなんとなく心もとない。

男子校時代は、ながく環境

係として生徒諸君と学校美化につとめた。上出来の有川友弘先生撮影の写真入りトイレ清掃手順表の作成。雑誌『世界画報』の取材を受けた教室床のワックスかけは、一週間かかった作業を、全校あげての協力と機材の充実などもあって、最後は一日で三十三教室を完了するところまで環境委員たちが進化させた。磨き上げられた床面に成果は一目瞭然。「行学一如」の実践には最適な活動だが、共学化とともにこの二つの活動は業者に委託された。

校外行事の係として多くの経験をつんだ。林間学校は会場が長野県信濃町に固定されて久しく、『駒大高校いやしの森』の開設を機に環境教育の充実が期待される。四十年間の修学旅行は広島・長崎・沖縄からひとつをコースにおりこんだ、平和学習の伝統堅持を念じている。

奉職当初、本校部活動の象徴「バレーボール部の激しいスパルタ式活動との出会い」は、部活は好きなものが集まって勝手にやり、顧問は試合の付き添いと心得ていた私には驚きではあったが、強く影響された。新人教員は必ず部活動を指導すべしとして、卓球部顧問を拝命した。

以後、「ミスをするな!」「勝て!」などと、と素人顧問の無謀指導で部員諸君が難渋することとなった。その間の戦績は、私中高協会第八支部と仏教主義学校大会ではほぼ首位を維持したものの、インターハイ代表は中瀬暢生君ただ一人。関東大会の団体は新人大会をふくめ六回、シングルスは五名の出場にとどま

った。顧問の指導力の不足にじくじたる思いである。指導者は「ああせい、こうせい」ではなく、「なぜそうなったのか」を的確に指摘し、進歩の方法を示唆することだと思ひ至ったのは退職直前だ。とはいえ長く東京都のベスト8前後の位置を維持してくれた部員諸君の精進に感謝するばかりだ。

我が校には斯界の名人・達人の先生が多く、校務のかたわらご指導いただき種々楽しませていただいた、陸上競技・書道・バスケットボール・スキー・水泳・剣道など、子供のころの見果てぬ夢の実現でもあった。

ことに三十三歳からはじめた剣道は朝内賢光先生のご指導で六段に進み、七段受審の資格を得るに至った。生涯精進である。

老親たちの介護のまっとうと平行させながら、私が第一のモくろみとするのは、古来老人に大人気の、いわゆるP.K.(元気に生きてコロリと死ぬ)である。その手立ては、ソバ打ち職人への転身と自活である、実現への五カ年計画に取り組んでいる。

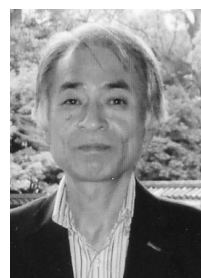
二〇〇八年七月二十五日付け毎日新聞の万能川柳にあった。

「足向けて寝られぬ人が八方に」の一句は痛切だ。無数の菩薩様に導かれ六十年間を思えば、唯々感謝あるのみである。地域に愛され、卒業生のご家族様ご一党に代々選ばれる学校として発展されんことを祈ります。

(社会科・昭和四十五年四月～平成二十年三月退職) 合掌

旅の途中

教諭 日吉 明廣



今年は「源氏物語千年紀」ということで様々な企画が催され、また予定されている。

私はその呼びかけに積極的に踊らされ、胸躍らせて大いに楽しんでる。紫式部邸宅址といわれている廬山寺を皮切りに宇治にある「源氏物語ミュージアム」を再訪、葵祭を見物する機会にも巡り合った。京都文化博物館で開催されていたその名も「源氏物語千年紀展」ではめったに目にすることのできない様々な貴重な品々を目の当たりにして楽しんできた。八月三十日から横濱美術館にて「源氏物語の一〇〇〇年」展も予定されている。「源氏物語」をはじめとした古典の世界にこれほどまで自分が魅了されるとは思ってもいなかった。

好きな日本文学の道に進んだ大学ではあったが、古典の世界には馴染めず面白く思うことはなかった。教員になってからも最初は四苦八苦して臨んだ授業であった。しかし、自分が面白いと思わないものをどうして生徒たちに面白くと思わせることができるだろう。必死に生徒たちと一緒に学んでいく中で、次第にその魅力、面白さにとらえられていった。

昭和四十九年から平成二十三年三月までの教員生活三十四年間、自分の一番好きなこと

面白く思うことを仕事として過ごすことができたことは本当に幸せだったと思う。国語の教員としてだけでなく、担任としても数多くの若者たちと接することができた。今まで出会った生徒の一人一人との出会いがあってこそ今の自分があり、これからも自分にとって掛け替えのない財産になっていくことは確かなことである。

自分は教員には向かないのではないが、悩み、挫けそうになったこともあった。そんな時、力を与えてくれたのは生徒たちの存在だった。喜び、怒り、哀しみ、楽しみ、様々な思いの中で一人一人とぶつかり合うことで生かされてきた。それが楽しかった。充実した教員生活だったとつくづく思う。卒業していった生徒諸君、一人一人に感謝している。

何か機会がある度に書いてきた自分の思いがある。「人生五十年」、ずっとそう思い続けてきた。その五十年を大幅に過ぎ、自分を振り返った時、やり残したことがたくさんあることに気づいた。長い年月、授業を展開するために学んでいく過程で、もっと知りたいと思うこと、そしてまだまだ知らないことがたくさんあることに気づかされた。しかし、残された日々は限られている。それを使うとやはり人生は一度、そう思わずにはいられなかった。自分勝手、我が儘な選択かもしれないが、たった一度の人生、やり残したことに費やす時間があったとしても許されるのではない。遺された人生、自分でもどこまでつき進めるかはわか

らない。でも、人の一生が、夢を、果たせなかった思いを追い続けけるものであるならば、たとえかなえられなくとも突き進んでいくことこそ、自分の人生ではないかと思う。

私はまだ旅の途中……！

今まで様々な形で接してきた卒業生諸君、そして教職員の方々には本当にお世話になった。今の自分があるのは皆さんのお陰と感謝している。
(写真 京都廬山寺にて)
(国語科・昭和四十九年四月)
(平成十九年三月退職)

駒澤大学高等学校公開講座

坐禅会（月例参禅会）への御案内

毎月一回第二土曜日に本校坐禅堂を開放し、一般の方々、保護者を対象とした坐禅会を実施します。平成21年度は以下の日程で行います。

姿勢を調べ、呼吸を調べ、心を調べて、ご一緒に坐ってみませんか。

心静かで豊かな気持ちを思いおこしましょう。

初めての方には坐り方をお教えいたします。

4月11日・5月9日・6月13日・7月11日・9月12日・10月10日

11月14日・12月12日・1月9日・2月13日・3月13日

いずれも11時～12時です。



◎ご参加いただく場合のご注意

- ・ご来校の際は警備室にお立ち寄りのうえ玄関ロビー受付前の第一応接室までお越しください。坐禅堂（本館屋上階）までご案内いたします。
- ・楽な服装でお越しください。足を組んでいただきますので、トレーニングウェア・スラックス・ロングスカートなどをご用意いただくと坐りやすいと存じます。
- ・坐禅は素足で行ないますので、靴下は脱ぎやすいものが便利です。
- ・8月は行事の関係上、実施しません。

※なお、有志の生徒を対象とした坐禅会を毎週月曜日の朝7時45分から開催しています。お時間が許せばご参加いただくことは可能です。

日程は宗教科・鈴木までお問い合わせください。

【駒澤大学高等学校 世田谷区上用賀1-17-12 電話03-3700-6131】

E-mail: suzukisu@komazawa.net

宗教科 鈴木 純行

同窓会より

新しい校旗を寄贈

現在使用している校旗が50年近く経ち傷みがひどくなりましたので母校の開校60周年に際し新しい校旗を寄贈することにしました。

そもそも同窓会活動が始まるきっかけが、ある日一期生が当時教頭だった上野慧賢先生から学校に校旗が無い事を聞きそれでは同窓会から贈ろうではないかと言う事になり、昭和34年5月31日第一回同窓会総会を開催校旗の寄贈が決定され同年7月6日渋谷校舎にて同窓会主催校旗贈呈式を行い同年11月1日開校記念式典にて校旗の入魂・樹立式を行いました。

この度、開校60周年式典にて新しい校旗を贈呈することができ当時の事を思い感慨深いものがあります。



会費・寄付金納入者芳名

平成十八年一月から平成二十年三月末までに納入された方々です。今回も複数年度分納された方がいらっしやいます。詳細は省略させていただきます。

会費納入者(敬称略)

- 〔二期〕佐藤園枝・桑木幹男・吉田吉恵・萩原良昭・前尚史・野澤孝佳・中山重雄・河野純香・原正男・野中寛一・吉富勝一・水島貞夫
- 〔二期〕石井清繁・茂林道龍
- 〔三期〕前川豊・橋本信義・島田寿三・森有美
- 〔四期〕谷口武・田上太秀・渡辺忠
- 〔五期〕高島宗光・井坂郁男・眞田治孝
- 〔六期〕堀秀男
- 〔七期〕檜阪勲・桑山信晃・中森和會
- 〔八期〕
- 〔九期〕滝沢昌哲・加藤泰通・高村仁・田中敬一・柳原義光
- 〔十期〕越水正明・向井三陽・徳山康二・関根正晴
- 〔十一期〕日南田義一・杉山孝・中野東輝・美原清・坂本信昭・立松敏三
- 〔十二期〕林一義・瀧村和雄・佐久間召一郎・武田旗夫・納谷僚一・金牧敏文・田中恒之
- 〔十三期〕石田充法・和田修道・志治孝昭・表勝昭・田中

- 塚明彦・高野英光・白鳥正志
- 〔二十四期〕中川宙・野本斉・岩井義道・森吉仁・岡田竹春・志田英郎・岩城知一
- 〔二十五期〕大瀧祐賢・高村輝久・渡会元紹・黒川仁・田口正延・浜崎保春
- 〔二十六期〕星康則・山崎日出俊・宮路典行・尾澤克広・小林均・小山善之・早坂不二男・守田憲光・吉水輝雄・米山正行
- 〔二十七期〕横山和弘・田崎博識・過外章道・椎本邦一・横井広之・鈴木英太郎・由良一洋・岡田正勝・山岸寛治・白浜勇二・上條晴久・大塚勉・田辺悟・依田隆之
- 〔二十八期〕三島信雄・野原正恵・青木宏始・萩原弘・北原徹・井上国彦
- 〔二十九期〕飯島秀剛・菊地茂雄・小林敏夫・川上條詮
- 〔三十期〕篠原浩一・鈴木久人・小野瀬康行・島田伸一郎・須賀秀幸・佐藤純一・北井敏英・長瀬恵則
- 〔三十一期〕矢口敦弘
- 〔三十二期〕村岸年延・前田幸樹・藤崎達也・遠藤広一・大崎光弘・網野正徳・藤田浩彦・伊藤竜一
- 〔三十三期〕近藤邦茂・井上誠二・加地保弘・今川光広・富澤憲司・今井誠司・伊藤裕章・二橋英之・酒井清孝
- 〔三十四期〕葛西好雄
- 〔三十五期〕吉田正幸・村上健・須藤昭
- 〔三十六期〕大永岳典・内藤賢二・千葉坦自・阿部道彦
- 〔三十七期〕奥島信明・佐田

- 圭穂・猪俣恭幸・内田祐生・池野道明・中野勉
- 〔三十八期〕
- 〔三十九期〕花輪直樹・小木剛・志村哲・岡田実智稿・坂本隆行・照井清
- 〔四十期〕阿彦尚志・羽場敬仁・高橋淳史・高橋浩一・葛西功
- 〔四十一期〕原田寿一・松本一郎
- 〔四十二期〕小柳智海・五味伸浩
- 〔四十三期〕野村利和・佐藤宏俊・田島寛之
- 〔四十四期〕山下大・久野昭紀
- 〔四十五期〕市原英典・横山勇・遊城充可
- 〔四十六期〕白石勇樹・越山正観・坪井良樹・後藤正年
- 〔四十七期〕荒木裕介・中沢大輔・立川玄倫・木村修・関口幸久

- 〔四十八期〕市原武史・大村慎太郎・牧野高子・長山靖・伊藤秀真・神山絵美
- 〔四十九期〕加藤道賢・沼田尚之
- 〔五十期〕荒木美佳・花山智憲・笹川貴広
- 〔五十一期〕大村俊二・立川正倫・坂田英明・佐々木正俊
- 〔五十二期〕菅原朋哉・光田杏奈・白数達朗・横尾友子・熊谷綾・佐藤雅徳
- 〔五十三期〕遠藤義範・星井裕之・杉原靖
- 〔五十四期〕石田昌也・富田洋平・小梅雅由・杉原英憲・小俣慎司・安斎佳典・佐藤義透・北原一彦・森山和之・長牛雄介
- 〔五十五期〕伊東潔・石井祐貴・水島康邦・澤田学・齋藤新作・佐々木隆俊・神山祐二・新渡戸隆道・長谷川恭平
- 〔五十六期〕伊藤太陽・斎藤

- 彬文・小澤竜真・岩立麻友
- 〔五十七期〕北原亮太・長岡徹・田中雄也・古郡直・横山直人・荒井伸一・佐野宏斗・佐藤隆法・吉成暁生
- ### 寄付金納入者
- 〔二期〕野澤孝佳
- 〔三期〕石田充法
- 〔五期〕松山克雄
- 〔十三期〕伊藤良一
- 〔三十三期〕加地保弘・富澤憲司
- 〔三十五期〕吉田正幸
- 〔四十一期〕松本一郎
- 〔四十八期〕牧野高子
- ### 旧職員(敬称略)
- 旧職員の方からも寄付を頂戴致しました。
- 川俣陽太郎・後藤啓道・神谷麻俊
- ありがとうございました。

校友会活動報告

- ### ◆剣道部男子
- 男子団体優勝
- 26年ぶり4回目!
- 全国高等学校剣道大会
- 三年丁組 船迫太貴
- 男子個人の部出場
- 国民体育大会剣道競技
- 少年男子の部東京都代表
- 関東高等学校剣道大会
- 男子団体出場
- 男子個人出場
- 三年丁組 船迫太貴
- ### ◆剣道部女子
- 関東高等学校剣道大会
- 女子団体出場
- 玉竜旗高校剣道大会
- 二年F組 佐藤有紗
- 五人抜き敢闘賞受賞
- ### ◆陸上競技部
- インターハイ
- 三年L組 飯塚篤之
- やり投げ八位記録61m31
- 関東大会
- 三年L組 飯塚篤之
- やり投げ五位
- ### ◆吹奏楽部
- 全日本吹奏楽コンクール予選東京都吹奏楽コンクール金賞

八転七起

春 真新しい学生服に身を包んだ新入生たち。毎年同じ光景が繰り返され、微笑ましい。私自身、その時期を通過した記憶がある。ぶかぶかの学生服に金色のボタン。白と黒のラインが引かれた帽子。テカテカの学生かばん。腕には初めて身に着けた時計。考えてみると一度に身の回りが全て新品。夢のような時期だった。それから数十年、ここまで来ると真新しい事はそう無い。最期は棺桶が真新しい事位か。まだ、早い。学生時代、その時したくても出来なかった事を今やろうとして出来ても何か違う。でも、忘れていたらそれを思い起こせば簡単にその時と同じ思いになる。これはほんと自分の中でも「エコ・リサイクル」。

金も使わず、気分は上々、おまけに身体も動けば『後期高齢者医療』にも打ち勝つ毎日が送れるというもの。その力は、やはり気持ち。相撲の『心技体』と言う言葉があります。最初の一字、『心』が後の二文字を引き寄せて合体しています。心に引き継がれる言葉の中にこれから生き抜くポイントがあります。

(あらい)

編集局より

会員の皆様
投稿をお待ち
します